

2024年度

# ヒューマンライツ

— 差別のない明るい大町市をめざして —

人権教育作品集(第47号)



大町市教育委員会

## まえがき

「人権」とは、人間が幸せに生きていくために、誰もが生まれた時から持っている固有の権利です。しかし、現代社会では、生活様式や価値観が急速に多様化してきました。今、わたしたちは数多くの人権に関わる課題に直面しています。同和問題や外国人の人権差別、男女共同参画社会の構築、いじめや児童虐待等の子どもの人権問題、高齢者や障がいのある人の人権問題、性的少数者への理解不足、SNSなどネット上でのバッシングや炎上などの人権侵害、職場でのハラスメント、感染症に対する偏見差別など、様々な人権問題をかかえています。今後も社会潮流の変化に伴って新たな人権問題が起こってくるでしょう。

こうした情勢にあるからこそ、一人ひとりが人権に対する認識を深め、安心して生活できる地域づくりが必要となります。各学校においては、あらゆる機会を通じて人権教育が実践され、課題への計画的取組みを行ってきております。ここに掲載した作品は、いずれも感性に富み、純真な感覚で人権問題を捉えた素晴らしいものばかりです。学校生活や日々の生活の中で体験し、感じたことを通して、「差別の不当性に気づき、差別を許さない」という素直で率直な気持ちが表れています。

様々な場面で、この作品集を人権教育の資料としてご活用いただき、人権尊重への願いが、学校・家庭・地域全体にいつそう広がることを期待しております。

令和七年二月

大町市教育委員会

# 目次

## ポスターの部 (学年別)

### ● 小学生の部

大町南小学校 一年	藤 巻 雫	5
大町南小学校 一年	渡 辺 想 真	5
大町西小学校 二年	村 上 玲 央	5
大町西小学校 二年	北 澤 優 羽	5
大町南小学校 三年	南 澤 凱 仁	5
大町南小学校 三年	堀 本 篤 生	5
大町西小学校 四年	矢 口 弓 束	6
大町西小学校 四年	ピーコック 笑実莉	6
大町東小学校 五年	麻 田 希 愛	6
大町東小学校 五年	長 山 瑞 來	6
大町東小学校 五年	越 山 登 矢	6
大町南小学校 五年	石 山 杏	6
大町南小学校 五年	山 本 月 愛	7
大町東小学校 六年	内 川 はな果	7
大町東小学校 六年	遠 藤 颯 大	7
大町東小学校 六年	竹 内 愛 姫	7

大町西小学校 六年	坂 中 一 華	8
大町西小学校 六年	和 田 怜	8
大町北小学校 六年	羽 田 湊 都	8
大町北小学校 六年	奥 原 晴	8
大町北小学校 六年	伊 藤 いろは	9
大町北小学校 六年	唐 澤 永 飛	9
大町北小学校 六年	田 邊 瑠 奈	9
大町北小学校 六年	吉 原 弘 大	9
八坂小中学校 六年	仲 嶋 丈 朗	9
八坂小中学校 六年	山 口 らひり	9

### ● 中学生の部

八坂小中学校 七年	仁 科 あいる	10
八坂小中学校 七年	吉 田 歩 未	10
美麻小中学校 七年	青 木 萌 翔	10
美麻小中学校 七年	幸 路 柑 奈	10

### ● 表紙

大町北小学校 六年	奥 原 晴
-----------	-------

# 作文の部 (学年別)

## ● 小学生の部

わたしのペアの六年生……………	大町東小一年	渡邊	聖	11
おかあさんへ……………	大町西小一年	柳平	悠楓	11
おかあさんへ……………	大町西小一年	塩原博	巳	11
まなちゃん……………	大町北小一年	吉田	倫太郎	11
やさしいも交りゆう会……………	大町東小二年	渡辺	蓮	11
うれしかったこと……………	大町南小二年	松本	帆夏	12
五年生といっしょに……………	大町南小二年	羽山	絵麻	12
友だちとわたし……………	大町北小二年	高松	茉莉子	12
人けんについて教わったよ……………	大町東小三年	内川	陽月	12
なかよしクラス……………	大町西小三年	吉澤	來遥	13
みんなが気持ちのよいクラス……………	大町西小三年	柴田	桂良	13
アイマスク体けん……………	大町北小三年	山崎	優雅	14
私らしさのダンス……………	八坂小中三年	福野	はづ	14
ぼくと、弟……………	大町東小四年	内川	稜	14
ひいばあちゃんが楽しくすごすためには……………	大町南小四年	渡邊	心優	15
人けんについて……………	大町南小四年	松澤	虎之助	15
友達との接し方……………	大町北小四年	名和	伶那	16
自分らしく生きよう……………	大町東小五年	齊藤	真央	16
相手を大切にすること……………	大町西小五年	窪田	悠乃	17
お互いを認め合う……………	大町西小五年	松澤	壮真	18
いろいろな学年の友達と仲よく楽しく……………	大町北小五年	田中	美羽	18
その言葉本当に大丈夫？……………	大町東小六年	立川	愛乃	19
男女差別をなくすために……………	大町南小六年	吉田	心希	19
その一言……………	大町南小六年	武井	心晴	20
人の支えに……………	大町北小六年	北澤	菜々子	20
ネットの使い方……………	八坂小中六年	伊澤	ぼたん	21
あいさつは大切……………	美麻小中六年	田中	大智	21
差別やいじめのない社会……………	美麻小中六年	神戸	ましろ	22

● 中学生の部

人との関わり方……………	大町中一年	竹内	桜愛	23
男女平等問題について……………	大町中一年	松澤	成莉	23
いじめのタネはうみません！……………	大町中一年	中島	愛梨	24
私の願っていること……………	大町中一年	渡邊	陽菜	25
理解し合って、平和な世界を……………	大町中三年	川上	那月	25
涙の想い……………	大町中三年	西谷	優	26
人間社会の自分の存在……………	大町中三年	平田	優月	26
ひとの変わり方……………	八坂小中七年	渡邊	剣太郎	28
人に気持ちを伝えるということ……………	美麻小中七年	清水	凜	28
あたり前の幸せ……………	美麻小中八年	小宮山	琥珀	29
本当の平等とは……………	八坂小中九年	西海	葵	30

● 高校生の部

桜色の風が咲くを観て……………	大町岳陽高校一年	折井	翔信	31
生きるとは……………	大町岳陽高校一年	矢口	琉稀	31
桜色の風が咲くを観て……………	大町岳陽高校一年	山崎	みなみ	32
人権とは何なのか……………	大町岳陽高校二年	中丸	青	33
桜色の風が咲く……………	大町岳陽高校二年	丸山	美心	33

小学生の部



大町南小学校 一年 渡辺 想真



大町南小学校 一年 藤巻 颯



大町西小学校 二年 北澤 優羽



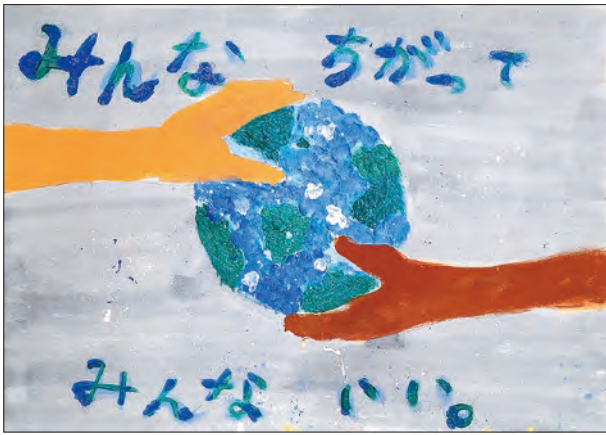
大町西小学校 二年 村上 玲央



大町南小学校 三年 堀本 篤生



大町南小学校 三年 南澤 凱と



大町西小学校 四年 ピーコック 笑美莉



大町西小学校 四年 矢口 弓束



大町東小学校 五年 ながやま みすき 長山 瑞來



大町東小学校 五年 あさだ のあ 麻田 希愛



大町南小学校 五年 いしやま あん 石山 杏



大町東小学校 五年 こしやま とうや 越山 登矢



大町東小学校 六年 うちかわ <sup>か</sup> はな果



大町南小学校 五年 やまもと <sup>る な</sup> 山本 月愛



大町東小学校 六年 たけうち <sup>ゆ ひ</sup> 竹内 愛姫



大町東小学校 六年 えんどう <sup>そつ た</sup> 遠藤 颯大



大町西小学校 六年 和田 伶 わた れん



大町西小学校 六年 坂中 一華 まかなか いちか



大町北小学校 六年 奥原 晴 おくはら はる



大町北小学校 六年 羽田 湊都 はた みなと



大町北小学校 六年 唐澤 永飛



大町北小学校 六年 伊藤 いろは



大町北小学校 六年 吉原 弘大



大町北小学校 六年 田邊 瑠奈



八坂小中学校 六年 山口 らひり



八坂小中学校 六年 仲嶋 丈朗

中学生の部



八坂小中学校 七年 吉田 歩未 よしだ あゆみ



八坂小中学校 七年 仁科 あいる にしな



美麻小中学校 七年 幸路 かな こうじ



美麻小中学校 七年 青木 萌翔 あおき もえと

# 作文の部

## 小学生の部

### わたしのペアの六年生

大町東小学校 一年 渡邊 聖

私のしまいペアは、かずとくんです。かずとくんは、いつもわたしにやわらぐです。

かずとくんは、じつは虫がきらいです。そのまゝをほるときに、なめくじがいたけれど、がんばってじつじつとまじもをほってくれました。かずとくんは虫がきらいだけれど、わたしをまもってくれてやさしいです。かずとくんにはかっこいいところもあります。どこかところと、ちからがある、その子のまじくへえをたぐひはたはたぐひとくくれます。そしてわたしが「おもしろい」といってほめたとき、わたしは「おもしろい」といってほめたことがあります。

### おがあさんへ

大町西小学校 一年 柳平 悠楓

あや、がっこうへいへんき、

「マラソン大かい、がんばって。」

いいってくれたから、さいごまではりきったよ。ありがとう。

らいねんも、おうえんしてね。

### おがあさんへ

大町西小学校 一年 塩原 博巳

マラソン大かいおうえんしてくれて、ありがとう。

おうえんしてくれたから、ほんきではしたから、二いとれたよ。それに、ほめてくれてありがとう。

### まなちゃん

大町北小学校 一年 吉田 倫太郎

まなちゃんは、いま二さいです。

でも、ほくはすごいとおもいます。

かいだんをのほります。二だんものほります。二だんのほるじ、じいちゃんがおろします。ちからがない人は、おろせません。ほくもおろしてあげます。そうすると、またかいだんをのほります。

まだちよつしかのほれないのに、一つでやめなへん、二つのほるのがすごいとおもいました。

### やきいも交りゆう会

大町東小学校 二年 渡辺 蓮

十月二十九日に、五年生とやきいも交りゆう会をやりました。みんなで作ったおいもをボランティアさんや先生にやいてもらいました。

まっている間に、二年生でできたあそびをやりました。五年生に楽しんでもらえてうれしかったです。さいごにやったあそびは『だるまさんの一日』でした。

「だるまさんがわらった。」

と言って、みんながわらいました。わらったら、こころの中でもわらって、え顔になりました。みんなでえ顔になって、とてもうれしかったです。

あそんだ後、五年生といっしょにおいも食べました。おいしくて、たくさん食べました。やきいも交りゆう会が、とても楽しかったです。

## うれしかったこと

大町南小学校 二年 松本 帆夏

わたしは、してもらってうれしかったことが二つあります。

一つ目は、友だちにたすけてもらったことです。おにごっこをしているときに、ころんでしまったことがあります。その時に友だちが「だいじょうぶだよ。」と声をかけくれて、わたしはとてもうれしかったです。

二つ目は、五年生がとてもやさしかったことです。わたしは、スポーツテストの時に、はんぶくよとびがあまりできなくてこまっていました。そのときに、五年生のペアの人がやさしくアドバイスしてくれました。そのアドバイスのとおりにやってみると、さっきよりもうまくできました。わたしも、こまっている人がいたらたすけられる人になりたいです。

## 五年生といっしょに

大町南小学校 二年 羽山 絵麻

姉妹学ぎゆうの五年生と、一年間いろいろなことをいっしょにしています。一番楽しかったことは、サツマイモのしゅうかくです。五年生のペアの人がとてもたよりになりました。五年生はとし上なので、さいしよはきんちようしましたが、いっしょにいるとだんだんかよくなれました。今の五年生とは、あと一年間がいっしょにいられないので、これからも

つとなかよくなりたいです。

もう一つ楽しかったことがあります。それはごうりゆうです。ごうりゆうは姉妹学ぎゆうでも、全校でもやりました。いろいろなごうりゆうで、いろいろな人となかよくなれました。そして友だちがたくさんできました。ごうりゆうはとてもいいものだなと思いました。これからもいろいろなとなかよくなりたいです。

## 友だちとわたし

大町北小学校 二年 高松 茉莉

わたしは友だちが大の大好きです。だって、すぐあそびに入れてくれるからです。

ブランコやおにごっこに「入れて。」と言ったら、友だちがすぐに「いよ。」と言って、入れてくれました。

あそぶことがなくて、教室にいたら、「いっしょにあそぶ？」と言ってくれます。なので、わたしは、ぜつたいにあそびます。ドッチボールをした時、「楽しいな。かちたいな。」と思いました。

休み時間にけがをしたら、友だちが「だいじょうぶ。」と言って、ほけんしつにいっしょに行ってくれました。ほかの友だちもいっしょに行ってくれました。わたしは、あそべるのに気をつかっといっしょにほけんしつに行ってくれたので、とてもうれしかったです。

わたしは、これからも友だちとなかよくしていきたいです。

## 人けんについて教わったよ

大町東小学校 三年 内川 陽月

今日、五時間目から六時間まで、人けんを考える市みんの集いがありました。

した。

人けんの意味は、人のけんりのことで人が生まれてからずっとあるものです。

猪又先生は昔から(生まれながら)ずっと心臓の病気で、今は四十七さいで死ぬまでずっとなおらないらしいです。

猪又先生の友だちは、みんなしょうじょうがあるらしいです。

一人目の方は、手も足も動かなくて電気で動く車いすにのって生活しているらしいです。

二人目の方は、目が見えなくて、もつどう犬を使って生活しているそうです。でも、スマホも使えるそうです。理由は、スマホの読み上げきのうを使っているからです。

三人目の方は、きつ音と言って頭では分かっているのに、声に出すとうまく言えないらしいです。

学んだことは助けてもらうことははずかしいことではなくて、こまったら「たすけて。手つだつて」と言える人になることです。私は、だれにでもやさしくしようと思いました。私から、「困っていますか」「大じょうぶですか」とか声がけしたいなと思いました。

## なかよしクラス

大町西小学校 三年 吉澤 来遥よしざわ くるはる

人けんは男女かんけいありません。分けなないといけなないところもあるけど、あそびとかは男女かんけいありません。

女の子でも野きゅうやサッカーが好きなのもいるし、男の子もぬいぐるみや料理が好きなのがいるから、男女別々に遊ぶひつようはない。私もサッカーやドッチボールが好きだからよく男の子とまざってやっています。

さみしい人がいないクラスにするには、みんながあそぶときは、なぞつてあげて、いやなことはいやだつて言つて、友だちのちゅういは一回でや

めて、勉強が苦手だつたら教えてあげて、苦手な人をつくらない。あいさつは、言った人も聞いた人も気もちがよくなるから、あいさつは大事です。

## みんなが気持ちのよいクラス

大町西小学校 三年 柴田 桂良しばた けい

ぼくは、みんなが気持ちのよいクラスにするために大切にしたいことを書きます。

一つ目は、助けたり、思いやりをもったりすることです。たとえば、けんかをしている人がいて、鼻血が出ていたり、ケガをしていたりする人がいたら、ほけん室につれていってあげて助けたいです。

二つ目は、ゆるることです。なぜなら、自分が気持ちいいし、相手も気持ちがいいとうれしいのではないかと思うからです。

三つ目は、わけ入だてをしないことです。なぜなら、友だちをいやな気持ちにさせてしまうし、自分も、もやもやしてしまうかもしれないからです。

四つ目は、あやまることです。なにかあったとき、あやまることができれば、もやもやしないで帰ったり、気持ちがよくなむれたりします。けれども、あやまらないと、もやもやして帰つて、考えごとをしながらねむることになります。それは気持ちがよくないから、ぼくはあやまることを大切にしたいです。

五つ目は、話し合いをすることです。たとえば、友だちとけんかをしてしまったとき、話し合いをしたら、「ごめんね」と言い合つてなかなかおろできるからです。

このようなことを大切に、ぼくは、みんなが気持ちのよいクラスにしたいです。

## アイマスク体けん

大町北小学校 三年 山崎 優雅

アイマスク体けんをして思ったことは、目が見えないとすぐ大へんだと思いました。

なぜそう思ったかというと、暗いのでどこにいるかもわからないし、何があるかもわからないことと、色やばしょもわからないので大へんだと思いました。

じつさいに体けんをしてみました。ほんとうに何も見えなくて人と耳とかんかくにたよることしかできませんでした。

つぎにぼくはガイドやくをやりました。いつもよりゆつくりあい手のペースにあわせて、いまの場所を教えながらあるきました。思ったよりあい手に場所やペースをあわせてゆつくりあるくのは、むずかしかったです。まわりに人がたくさんいたけれど、そつう時はまずゆすりあうといいと思いました。

アイマスク体けんをすると目が見えない人の気持ちがよくつたわって、ぼくも目が見えない人がいたらたすけてあげたいと思いました。

## 私らしめのダンス

八坂小中学校 三年 福野 はづ

私の好きなところは、ダンスが好きなおとこです。得意なことは、ダンスの練習です。頑張っていることは、早くふりをおぼえることとです。

でも、ふりを早くおぼえることが苦手です。私は、ふりをおぼえるのが苦手だから、毎日家で練習しています。毎日毎日、ちよつとずつ練習すると、ダンスのレッスンの日には上手におどれるようになります。おどれてとつてもつれしいと、いつも思っています。これからも毎日ダンスの練習

をして、レッスンのときに「練習してよかった」と思いたいです。いつかコンテストチームに入って、ダンスの大会でメダルをとれるようになりたいです。

## ぼくと、弟

大町東小学校 四年 内川 稜

ぼくには弟がいます。弟は、二才です。名前は恵介です。ぼくは、恵介がとつても大事です。

休みの日に、ぼくのおもちゃのゴジラを勝手に使つて遊んでいる時に、「返つて」

と、とりあげたら、弟は泣いてしまいました。だから、すぐにおもちゃをかしてあげることになりました。かしてあげると弟は、泣きやんでくれました。ぼくは、仕方なく他のゴジラのおもちゃで遊ぶことになりました。

お昼ご飯を食べた後、弟に発しんが出てしまいました。あわてて熱を計つてみると三十八度もありました。みんなパニックでした。ぼくも心配でした。ぼくにできることを考えてみました。ぼくにできることは、弟の近くにいてことだと思いました。

だからぼくは、ゲームをする時も、弟の横に行つて話しかけました。ぼくが、

「だいじょうぶ」

と声をかけると弟は、こくんとうなずいてくれました。それを見て、少しホツとしたけど、まだまだ心配でした。

土曜日だったので、夕方は、いっしょにクレヨンしんちゃんと、ドラえもんテレビを見ました。テレビを見ている時は、弟も元氣そうに笑っていました。でも、熱を計つてみると、下がっていませんでした。

元氣そうでよかったのですが、熱が下がっていないので、心配はなくなりませんでした。

熱が下がって元気になったら、弟とゴジラのおもちやを使って遊んであげたり、いっしょに座ったりして話をしてあげたいと思います。

これからも、ぼくは弟のめんどろを見たり話し相手になったりすることができるやさしいお兄ちゃんになりたいと思います。

## ひいばあちゃんが楽しくすごすためには

大町南小学校 四年 渡辺 わたなべ 心優 みゆう

わたしのひいばあちゃんのかみの毛が白くて、しせつにいます。ひいばあちゃんの写真をおばあちゃんに見せてもらいました。しせつにいる他のおばあさんやおじいさんもかみの毛が白かったり、車いすに乗っている人がいたりしました。わたしは少し、そのおばあさんやおじいさんたちのことが心配になってきました。体が弱いので、しせつで他の人たちといっしょに楽しくすごしているのかなと思います。そこでわたしは、写真を見ながら、おばあさんやおじいさんたちが楽しくすごせるような工夫を考えてみました。全部で四つの工夫を思いつきました。

一つ目は、しせつの行事です。ハロウィンやクリスマスなど、しせつではいろいろな行事が行われています。みんなでクリスマスプレゼント交換をしたり、かそつしておかしを作ったりしている写真がありました。しせつで何か楽しいことをしてあげたいというしせつの人の気持ちが伝わってきました。他の人と仲良くできるのも、ひいばあちゃんたちが楽しめるひけつだと思いました。

二つ目は、すごしやすくなる道具です。しせつには、車いすに乗っている人がたくさんいます。スロープという、学校にもあるつかみぼつのようなものがあったり、外にはもちろん点字ブロックがあったりします。車いすの人もしょうがいのある人もすごしやすくなっています。

三つ目は、お料理体けんです。みんなで料理をすれば、仲がすごく深まります。ぎょうざやクッキーなど、みんなが食べたいものを参考にしながら

楽しく料理をします。

最後の四つ目は、しせつで働いている人のやさしさです。しせつの人はきびしくおこったりせず、やさしいんです。わたしがお母さんとしせつに行ったとき、「〇〇さん、来てくれたよー」と声をかけてくれました。すごくやさしいなと思いました。

このように、おばあさんやおじいさんたちが楽しくすごせるように、いろいろな工夫ができると思いました。おばあさんやおじいさん、しょうがいのある人は、体が弱かったり、目や耳が聞こえなかったりする人がたくさんいます。その周りには、その体が弱い人たちをささえてくれる人たちがたくさんいることがわかりました。その人たちを見習って、わたしにもできることを考え、取り組んでいきたいです。

## 人けんこいしん

大町南小学校 四年 松澤 まつざわ 虎之助 とらのすけ

ぼくは、三年生からしょうがいの人と交流する事がふえて考えが変わりました。三年生の時は車イスの方とスポーツをして、しょうがいがあってもぼくたちと同じスポーツができるんだと初めて思いました。

四年生の時は、首から下が動かせない人と交流しました。初めて見たとき、どうやってサッカーするのかと思いました。うでや足を使わなくても、車イスのしくみでサッカーや他のスポーツもできるんだとびっくりしました。それと、しょうがいの者の中には、食べさせてもらったり、きがえさせてもらったりしなければいけない人もいます。知りました。

しょうがいの人と交流する前までは、しょうがいの人の事をよく知らなかったけど、一緒にかかわってみてたくさん分かった事があったので、交流してよかったです。

お店や学校ではないところで会った時、ぼくはしょうがいの人をじっと見てしまっていました。自分たちとちがうすがただだから見てしまっていた

ました。でも、しょうがいの人はずうやって見られたら、いやな気持ちになると思います。

これからは、しょうがいの人がいなくてもじーっと見たりしないで、こうやってがんばっている人もいるんだと思うようにしました。もし、こまっている事があつたりしたら、声をかけて、何にこまっているのか聞いたり、手助けできる事はしていきたいと思いました。

中には、しゃべれない人やねたきりの人もいるのかなと思いました。またしょうがいの人と交流することがあつたら、いろいろ知りたいです。

三年生のときから、運動会でパラスポーツの車イスリレーをしました。そのときは、はじめて車イスに乗ってみて、車イスでリレーするのはむずかしかつたけど、だんだん動かし方もわかつてきました。

四年生のときの車イスリレーでは、三年生に乗り方を教えたりできてよかつたと思いました。

他の学校では、そういう車イスを使つたきょうぎはないと聞いたけど、車イスリレーをおうちの人や地いきの人に見てもらつて、車イスでもスポーツができるということを知ってもらつたのでよかつたです。四年生でやつた車イスリレーは最後だけけど、これからも運動会でやつてほしいです。まだ、ぼくみたいに、しょうがいのことを知らない人も交流して、もっとしょうがいのことを知つて、みんなが生活しやすい世界になつてほしいです。

## 友達との接し方

大町北小学校 四年 名和 侖那

私は、友達に親切にすることが大切だと思いました。親切にするために私は、四つのことを考えました。

一つ目は、「友達の気持ちを考える」です。友達の気持ちを考えなかつたら、自分は親切のつもりだけけど、友達はぎやくにめいわくになつてしま

つたとかあるかもしれません。そうならないために、友達の気持ちを考えることを大切にしたいです。

二つ目は、「友達のことをみる」です。友達のことをみると、つらい顔やかなしい顔くるしい顔を見ると、手伝つてほしい事やばましてほしい事など相手の思つていることが分かります。

三つ目は、「こまっている人を助ける」です。足がいたい人や、目の見えないう、耳の聞こえない人をみついたら、かたをかしたり、アドバイスをしたりしてあげると、相手もうれしいし、自分も親切にできるので、二人とも笑顔になります。

四つ目は、「あいさつをする、笑顔になる」です。あいさつをする、笑顔になれるし友達もできます。自分が笑顔でいると、みんなが笑顔になります。この二つを大切にすると、ケンカにならないし、友達もできます。親切にするといことがおこるので、私はこれから人に親切にしたいです。この作文を書いていて、親切にするためには、色々なやり方があるなあと思いました。これからも、人に親切にしたいです。

## 自分らしく生きよう

大町東小学校 五年 齊藤 真央

十一月八日金曜日に、猪又先生の「人権を考える市民の集い」というお話を聞きました。

猪又先生のお話で教えてもらったことは、猪又さんの病気は一生治らないこと、水泳やおにごっこ、走るなどできるけど医者さんにやらないでと言われている、とつてもつかれやすいなどくちようがあると教えてもらいました。

猪又さんの友だちにも似ている人がいるそうです。一人目は、ベッド以外はいつも車椅子で、首から下が動かないけど、右手のところを「コントコ」がついていてそれで車いすを動かしているそうです。

一人目は、目が見えないのでいつももうどう犬といっしょに生活しています。子どものときは見えていたけど大人になってから見えなくなったそうです。けどスマホもつかえます。メールなどが来てもスマホが読みあげてくれるのでメールは読むことができますそうです。

三人目は、スムーズに話すことができず、言葉がでるときとでないときがあるそうです。そういうときはまってあげると助かるそうです。

四人目は、生まれつき手と足がない人です。けど本も書いたそうです。自分のとくちようがわかってくると自分らしく生きられる、みんなが同じことができるのはあたりまえではないということがわかると教えてもらいました。

猪又さんは、人前でしゃべることはきんちようしないし、料理はとくいだそうです。

みんな能力がちがうから責めなくていいし、できないことはないよりあった方がいいということがわかるためにも、いろんな人と積極的に友達になつた方がいいそうです。

芸能人の人でも、体は男で心は女の人や、本を読んでもセリフを覚えられないけど耳から聞くと覚えられるという人がいるそうです。

「人権を考える市民の集い」に参加してみて思ったことや感想は、世の中には首から下が動かない人や、目が見えない人、手と足がない人、猪又さんみたいに心ぞつが悪い人などいろいろなきんちようをもっているということが分かって良かったです。

しょうがいがあってもスマホが使える人や、できることがある人はいるそうです。

猪又さんが人前でしゃべることがきんちようしないのはすごいと思いました。私は人前で話すことが苦手だからです。

人権は、自分らしく生きることだと知れたので良かったです。私もいろんな人とつながって自分らしく生きていきたいと思っています。

## 相手を大切にすること

大町西小学校 五年 窪田 悠乃

私は校長講話で、ある小学校の二人の友だちのかかりについてのビデオをみました。

一人は人前に出ることが苦手なAさん、もう一人は手足が不自由だけど積極的に人とかわり自分のやりたいことにチャレンジするBさんです。二人とも昔から仲良しです。二人が六年生になると、Bさんが困っているとAさんが手伝うようになりました。すると、Aさんの姿を見ていたクラス友だちもBさんとかかわることが増えてきました。AさんとBさんとかかわりがクラス全体に広がっていったお話です。

私は、このビデオを見て感じたことは、Bさんが困っているのを見たAさんが、自分から積極的に動いて、Bさんの手伝いをしてるところがとてもやさしいなあと思いました。また、Aさんのクラスの友だちも、うまくできないBさんに進んでかわって助けてあげているところが、AさんやBさんのクラスってみんなやさしくて温かいクラスだなあと思いました。

AさんやBさん、そのクラスの友だちの様子を見ていて、私は、障がいがあるかないかではなく、相手を思う心が大切であるということを感じました。AさんやBさんは、お互いに相手を大切に思いあっていて、そんな二人の姿がとてもすてきなあとと思いました。私たちもAさんやBさんのように、互いを思いやる気持ちを一人ひとりがもつことで、やさしくて温かいクラスになるのではないかと思います。

私は、AさんやBさん、そのクラスのように、クラスの友だちに対して優しくしたいと思いました。そのために、相手を大切にすることをクラスみんなでつくり上げることで、みんなが温かくて優しくなれると思います。誰に対しても優しくしてあげられるクラスを私はつくっていききたいと思っています。

## お互いを認め合う

大町西小学校 五年 松澤<sup>まつざわ</sup> 壮真<sup>そうま</sup>

ぼくは、校長講話で二人の仲よしの男の子のビデオを見ました。一人は、人前に出ることがはずかしいAさんと、もう一人は手足に障がいがあっても自分から人にかかわろうとしているBさんです。二人は幼稚園からずっとなかよしでした。しかし学校ではあまり二人がかかわることが少なかつたのですが、六年生になると、AさんはBさんが学校で困っていると、はずかしがることなく、Aさんを介助していました。そんなAさんをBさんはとても信頼していました。

ぼくは、二人のかかわりを見ていて、お互いを認め合うことととても大切なことなんだなと思いました。Bさんは手足が不自由なのでうまく体を動かすことができないので、Bさんを車いすに乗せてAさんが移動させたり、Bさんがトイレに行きたいときには、AさんがBさんを抱きかかえて、トイレの介助をしたりしました。AさんはBさんのトイレの介助を始めからできたのではなくて、「ぼくがやらなくちゃ。」と思ってBさんにかかわっていったところがとてもすてきなあとと思いました。

また、AさんとBさんがお互いにいいところも悪いところも気づいて認め合っているところもいいなあと思いました。Aさんは、人前に出て話すことが苦手ですが、そんなAさんをBさんは、持ち前の明るさで元気づけていました。そんなBさんと一緒にいることがAさんにとっても信頼できる友だちとして、お互いを大切にしようとしているところがいいなあと思いました。

ぼくは、AさんとBさんの姿から、一人ひとりを認め合うことが大切だと思ったし、そうしたことができることととてもすてきなあとと思えました。ぼくも二人のように、お互いに認め合うことができる、そんなすてきな友だちをつくりたいと思います。

## いろいろな学年の友達と仲よく楽しく

大町北小学校 五年 田中<sup>たなか</sup> 美羽<sup>みう</sup>

大町北小学校にはスマイル月間というものがあります。私は、このスマイル月間を通して、他学年の友達ができました。

今年のスマイル月間では、1～6年の学年の人とたてわり班を作って、いろいろな交流をしました。

まずは生活委員会の計画で、たてわり班の人とかわり鬼をしました。今までのスマイル月間にたてわり班で交流したことや鬼ごっこをやったことはありませんでした。だから私はびっくりしました。だけど、かわり鬼をやってみたら、ペアになった子たちと笑ったりさけんたりはしゃいだりして、だんだん仲良くなりました。そして、ろう下で会ったときなどに、「おはよー！」などとあいさつができ、笑顔になりました。今まで話さなかったたてわり班の人と、仲よくなれていいと思いました。

それと、児童会本部の計画で、お絵かきリレーもしました。たてわり班のみんなが協力してひとつの絵ができて、とてもうれしかったです。たとえば、ネコの絵を描いたとき、最初の人がかわいく描いてくれたおかげで、みんながおもしろく、かわいく描けました。私は最後だったけど、かわいさもようが描けてうれしかったです。このお絵かきリレーで班の人と前よりもっと話ができるようになりました。私は班のみんなが笑うと、とてもうれしい気持ちになります。なぜかという、相手が笑うと自分の心もワクワクして心が弾むような気がするからです。私は1年生の時、姉妹学級の6年生のペアの人と遊んでいて、自然と笑顔になったことを思い出しました。だから、この時の6年生がやってくれたように、私もたてわり班の人に笑顔でかわるようになりたいです。

他にもたてわり班の人と行った仲良し清掃では、協力してつくえやイスを運び、さらに仲が深まったと思います。

私は、スマイル月間を通して、たてわり班で1〜6年の人との交流が増えたおかげで、いろんな学年の友達が増えました。スマイル月間が終わっても、仲よくしていきたいと思います。

## その言葉本当に大丈夫？

大町東小学校 六年 立川<sup>たちかわ</sup> 愛乃<sup>あやの</sup>

みなさんがふだん使っている言葉、本当に人を傷つけてしまったりしていませんか？ 私は、言葉で人を傷つけてしまったことがあります。それとは逆に、言葉で傷ついたこともあります。

言葉で傷つけてしまったときは、本当に傷つけてしまったことが分からないので、別になんとも思っていないかもしれませんが、後で、先生に言われてやっと本当に傷つけてしまったことが分かりました。

そして、言葉で傷ついたときは、あやまってもらっても、素直に「いいよ」と言うことができませんでした。それと同じで、傷つけてしまったときに、私があやまると、「もう二度と言わないでね」と言われました。そのとき私は、とてもひどいことをしてしまったなと思い、あとからとても後悔しました。なので、もう相手が傷つくようなことは言わないようにしました。次、相手が傷つくようなことを言ってしまうと、また同じようになってしまう、言われた人は当然、その言葉を言ってしまった自分も、あとから後悔し、いやな気持ちになってしまうと思ったからです。

なので私は、相手を傷つけてしまう言葉ではなく、相手が喜ぶ言葉を言ったら、だれも傷つかないし、逆にみんなが笑顔になると考えました。それから、「優しいねー」、「君のおかげだよー」、「がんばってねー」などの、優しい言葉をかけました。すると、「ありがとうー」、「がんばるねー」などの、優しい言葉が私に、笑顔で返ってきました。その笑顔を見ると、私は優しい言葉をかけて良かったなと、思えました。

このように、相手が傷つくような言葉を言ってしまうと、だれもいい気

持ちにはならず、自分も後悔します。ですが、優しい言葉をかけると、みんなが笑顔になり、自分も優しい言葉をかけて良かったなと思えます。なので、これからは、優しい言葉で、たくさんの人を笑顔にしていきたいです。

## 男女差別をなくすために

大町南小学校 六年 吉田<sup>よした</sup> 心希<sup>こころね</sup>

私は、「男子なのに泣くなよ」や「女子なのになんで」という言葉が好きではありません。なぜなら男女差別につながるからです。こういう言葉を言っている側はなんとも思わないかもしれませんが、言われた側は嫌な気持ちになると思います。

そこで私は、なぜ男女差別が起こるのかその理由と、どうしたら男女差別がなくなるのかの対策を3つ考えてみました。

まず一つ目として、男子と聞いて思い浮かぶ言葉を友達に聞いてみました。「活発」「やんちゃ」「ぶねはける」などの言葉ができました。また、女子と聞いて思い浮かぶ言葉も聞いて見ました。「スカート」「髪が長い」「家事」などの言葉ができました。このような男女の印象から差別が起こるのだと思います。この男女の印象をなくすためには、男子はこう、女子はこうする、という気持ちを無くすことだと思います。でも、急に気持ちを变えることは難しいと思うので、だんだんと意識を変えていけば男女差別も減ると思います。

二つ目は傷つく言葉について調べました。たとえば、「男子は強くあるべき」や「女子は優しくあるべき」など差別をする人もいます。そして、そのような意見で苦しんでしまっている人もいます。男子がピンクを好きだけで「変」と思われて嫌な思いをする人などがいます。また、女子が男子のような髪型や洋服を着ていると、「男子かと思った」と言われて傷つく人もいます。このような言葉は、相手に直接届かなくてもネットなどで見つけて嫌になる人もいると思います。そこで私は対策を考えました。

まずは、二つ目の対策と同じで、「男子はこう」「女子はこう」などの気持ちを無くすことだと思います。二つ目は、ネットなどで見て嫌になるような言葉を見ないようにすることだと思います。完全に無くすことは難しいと思うので、自分が見ないようにすれば、嫌な気持ちをしないで済むと思います。

三つ目は、差別をされても気にせず、自分に自信を持つことだと思います。自信を持って「自分はこうなんだ。」と伝えれば、差別をされずに済むと思います。

このように、男女差別で苦しんでいる人がたくさんいます。少しでもそういう人が減るように、一人ひとりがそのことについて考え、自分が発信する言葉にも気をつけて行動することが大切だと思います。

## その一言

大町南小学校 六年 武井<sup>たけい</sup> 心晴<sup>こはる</sup>

みなさんは友達のことを「○○くん」「○○ちゃん」「○○さん」とよんでいきますか？ 私はそれができている人がたくさんいると思います。ですが学校全員ができているかどうかはわかりません。前にこんなようなことを聞きました。「アブ」「さる」とその子を見た目でよんでいた名前を変えてよんでいた。その子が言われてどう思ったのかはわかりませんが、悲しかったり苦しかったり我慢していたりしたのではないのでしょうか。言った人は言っても大丈夫と思っているかもしれません。でも、そういうこととがはじめにつながってしまいます。私も低学年の時に一時期、自分が言われていやな名前と呼ばれたことがあります。その名前を言った子は笑っていました。言った相手はすぐにわすれてしまっただけ、言われた子は、そのまま心に残り続けてしまいます。いつか、その言った子も後悔してしまっただけかもしれませんが、もし他にもそういう子がいて、いやな気持ちを伝えられずにいたら、最後ははじめになってしまっただけでもありません。その子も

いじめている子も傷ついてしまうので、相手がいやな言葉を使ってはだめだと思いました。私達のクラスでは、そういうことがおきないために、人それぞれ、「それなら言っても大丈夫」という名前を考えました。「よび捨てでも大丈夫」という人や「さん付けでよんでほしい」などいろいろな意見が出ました。今はみんなそれを意識しているので私達のクラスで悲しんでいる人はいないと思います。みなさんもぜひ友達に聞いてみてください。いやな思いをする人がいなくなれば、いじめをなくせる第一歩になると思います。そして全校のみなさんや他の学校……と続いていけば「いやな思いをしている人が減っていくかもしれない」と私は思っています。このようなことから、私はもしいやな思いをしている子がいいたら、話して原因を聞きたいです。名前は親からもらった一番最初の宝物です！ その名前をちがう名前に変えるのはぜったいに良くないです。そこでみなさんも友達に「どんなよび方でよんで良い？」などと話してみてください。

## 人の支えに

大町北小学校 六年 北澤<sup>きたざわ</sup> 菜々子<sup>ななこ</sup>

私は、授業で高齢者疑似体験をしました。高齢者になりきるために、いろんな装具を体に付けました。装具は全部で六つ。腕やひざに曲げづらくするサポーターを付け、手首や足首に重りを付け、重りの入ったリュックを前向きに背負い、両耳に耳せんをし、黄色いレンズの眼鏡をかけ、両手に手ぶくろをしました。

私が、六つの装具の中で一番不自由だなと思ったのは、耳です。私はまだ小学生なので耳もいい方ですが、耳せんをしたらいっきに耳が聞こえなくなりました。人の声がこもって聞こえたり、周りの音も聞こえにくくなったりしました。

その時に、自分のおじいちゃんやおばあちゃんが心に浮かびました。おじいちゃんやおばあちゃん、私も私の質問に対して「たっ、もう一

「何回も聞いてごめんね。」と言っています。私は、この体験中、もういけない気持ちになりました。なので、私は今度からは「おばあちゃん、あやまらなくてもいいんだよ。おばあちゃんが聞こえるまで何回でも言うから。」と優しく声をかけてあげたいです。

一番目に不自由だと思ったことは、目と手です。眼鏡で見えづらくなり、手ぶくろをしたことで不自由になって、大変不便に思いました。

特に、お金を数える時は、数字や色が見えづらく五円なのか五十円なのか、パツと見、わかりませんでした。そして、お財布からお金を出すときはつかみづらく、思った以上に時間がかかりました。このことから私は、買い物の会計で、お金をなかなか出すことができずおそくなってしまい、文句を言われていやな思いをしている人がいるんだろうなと思いました。

私は、この高齢者疑似体験をしてみて、自分のおじいちゃんやおばあちゃんの支えになれるようにしようと思いました。また、お年寄りの人たちに対して、優しくしてあげたいなと思いました。

## ネットの使い方

八坂小中学校 六年 伊澤<sup>いざわ</sup> ぼたん

最近、スマホを早くから使い始める子が増えていく中で、ネット上の悪口やいじめが多くなっています。そこで私は、スマホを使い始めたら、親と約束を決め、ネットの使い方を知っておかないといけないと思いました。

なぜ、このように思ったのかというと、ネット上のいじめが原因で自殺してしまった人のニュースを見たからです。最初はちょっとしたことでも、どんどんエスカレートしてしまうというおそろしさを知りました。私にはこのような体験はありませんが、ネットでのいじめはとても危険だと感じました。いじめをしている方は軽い気持ちでも、いじめを受けている方はすぐく追いつめられて、最悪の場合、自殺してしまいます。どんな理由があっても、ネットでのいじめはしてはいけないと思いました。

これからスマホを使って会話をするときには、いつもよりも相手のことを気にしながら言葉を選ぼうと思います。

## あいさつは大切

美麻小中学校 六年 田中<sup>たなか</sup> 大智<sup>だいち</sup>

人と会ったときにあいさつをすることは、みんなが気持ちよく過ごすためにとても大切なことだと思います。僕がそう思ったのは、去年生活委員のあいさつ当番や、八方池登山であいさつに関する経験をしたからです。

まずは、生活委員の仕事の一つのあいさつ当番の経験からです。あいさつ当番の時、先生や児童・生徒にあいさつを返してもらおうと自然と良い気持ちになりました。けれど「おはようございます」とあいさつをしたのに、無視して通り過ぎていく人が時々いました。そんな人を見ると「なんであいさつを返してくれないのかなあ」と思いました。そう思ったので、今では生活委員や道で会った人には毎朝あいさつをするようにしています。

二つ目は、雨の日に八方池に登山に行った時の体験から思ったことです。雨が降っているし、とても疲れていたけれど、八方池から下山してきた人に「あともう少しですよ、頑張ってください」と言われました。その言葉を聞いて「よし、あともう少しだ。頑張るぞ」という気持ちになりました。そして声をかけてくれた人に「はい、頑張ります」と返すと、声をかけてくれた人も笑顔になりました。

では、いいあいさつとはどんなあいさつなのでしょう。

暗い声だったり下を向いていたりすると、あいさつをされた人は気持ちよくありません。それどころか良い気分だったのに機嫌が悪くなってしまいます。

みんなが気持ちよくなるいいあいさつとは、次のようなあいさつだと思います。さわやかな笑顔で、しっかりと相手の顔を見ているあいさつです。このあいさつならば、あいさつをした自分も、あいさつを返してくれた相

手もいい気持ちになるといことが、あいさつ当番の経験や生活委員会の友達との話し合いから分かりました。

あいさつ当番の経験からは、どんなあいさつが一番気持ちいいか分かりました。そして、雨の日の八方池の登山の経験からは、あいさつでどれだけ気分が良くなるかが分かりました。この二つの経験があつてからは、あいさつについて今まで以上に意識するようになっています。これからも家族や友達はもちろん、登山などで初めて会った人にも、さわやかな笑顔で、相手の顔をしっかりと見てあいさつをしたいと思います。そして、道などで会った人からあいさつをしてもらったら、相手が嫌な気持ちにならないようにいいあいさつを返したいです。

## 差別やいじめのない社会

美麻小中学校 六年 神戸 ましろ

私は、差別がいじめにつながると思っています。なぜなら、差別はだれかを自分や自分が気に入っている人と比べて、そのちがいがから悪いことを言ったりひどいことをしたりすることが多いからです。では、どうしてそのような差別やいじめをしてしまうのでしょうか。

私は二つの理由があると思います。

皆さんも、障がいのある人を見たことがあると思います。障がいの種類は、たくさんあります。その中でも、特に見た目で判断され誤解されてしまう障がいのある人がいます。たとえば、耳の聞こえない人です。耳の聞こえない人は、実際に接してみないと、なかなかかわからないと思います。人によっては、耳マークや障がい者マークというものをつけている人もいます。でも、それがなかったために、耳が不自由であることがわからずに、答えが返ってこないとか「無視している」と勝手に思いこみ腹を立ててしまうこともあります。そんなときは、すぐ「えっ？」と思いません、「耳が不自由なのかも」と思って、知ってる手話やジェスチャーなどで関わり合つのも

いいですね。

二つ目は、その人なりの理由でいじめのようなことをしている人たちがいます。たとえば、その人がお金があるかないかで、その人に対する態度を変えてしまう人がいます。そのような態度をとる人は軽い気持ちでやっているのかもしれませんが、そのような態度をとられると、心に大きな傷がついてしまいます。それに自分がそうされていなくても、自分の友だちがいじめられていたら、とても悲しくなります。その人は軽い気持ちで面白がってやっているのかもしれませんが、そのような行動が周りの人も悲しい気持ちにさせてしまいます。

でも、クラスみんなで一人の人をいじめている場合などは、罪の意識は人数が多い分、うすまってしまいかもしれません。ですが、いじめられている人は、とても悲しくなります。しかも、「二対一」ではなく、「二対多」でいじめられると、「二対一」のときよりも心に深い傷がついてしまいます。いじめは、いじめている方は軽い気持ちでも、いじめられている人は、とてもつらい思いをしています。もしクラスでいじめを見かけたら、その子に寄りそつことが大切だと思います。

このように、差別やいじめをなくすには、見た目で判断しないととも、その行動で相手がどんな気持ちになるだろうか、自分がされたらどんな気持ちがるだろうか、と考えて、いろいろな人と関わり合つていくことが大切だと思います。この作文を読んでくれた人には、いじめや障がいのある人を見かけたら、ここに書いたことを思い出してもらえると、うれしいです。

## 人との関わり方

大町中学校 一年 竹内 桜愛たけうち りあ

私は、障がいのある人を、テレビや実際に見ると、障がい者は、どんな気持ちで生活しているのか、もし、自分が障がい者に会ったらどんなふうに関わったら良いか考えました。それを今から二つ紹介します。

一つ目は理解や、受けとめるということが必要だと考えます。理由は、私が小学校一年生のとき、うんていで遊んでいたら、そこから落ちてしまつて、右腕を骨折してしまつたことがあります。今では手術をして完全に動きます。でも治すまでのリハビリ中に、たくさんの人に支えてもらいました。荷物を持つてくれたり、男女問わず助けくれたりしました。その周りの子の行動に今でも感謝しています。そして私は、高い所から下を見たりなどがすごく怖く「もしここから落ちたらどうなるか」などを考えて、泣いてしまつときがあります。そんな私を見つけてくれて、いつも落ち着かせてくれる人がいます。その人にも感謝しています。なので相手を理解する、受けとめることが必要だと考えました。

二つ目は、障がいのある人の生活を調べたり体験をしたりすることです。私は、夏休み中に点字を実際に打ちました。点字を打つてみて、私は点字一覧表の凹面用と凸面用を見て打つたり、読んだりしました。でも、目が不自由な人にとっては普通のことかもしれないけど私は尊敬します。理由は、目が見える私からするとなんと書いてあるのか表を見たりしないとかわからないけど目が不自由な人は、触つて、聞いて、点字で表せるということとがわかつたからです。また、点字の打ち方を教えてくださった先生から、今では、QRコードをかざすと音声がながれたり、普通の紙より少し厚い特別な紙を使うことで、点字を触つても打つたあとがつぶれにくいなどの

工夫がされていることを知りました。これは実際に体験して話を聞かなければ、一生知らないままだったと思います。

なので、これからは、障がいについて調べたり、話を聞き体験をしたりして、障がいや、障がい者を理解し受けとめていきたいです。また、人は体全体の一部分がないのと、全体があるのでは、生活の仕方や環境が違ってきます。みんな得意不得意のある人間で一緒という考えを大切にしたいです。周りが偏見をもって、一人の人を差別していても、流されず一人の人として見て、話すなど人と関わっていきたくたいし、私を助けてくれた人や支えてくれた人に感謝を忘れずに生きていきたいです。

## 男女平等問題について

大町中学校 一年 松澤 成莉まつざわ なるい

私は学校の、〃人権を考える市民の集い〃という大町市民の集いが行われ、「LGBTQ」について学びました。私は正直言つて、『性同一性障がい』や『トランスジェンダー』などの言葉は聞いたことがあつたりして知つていましたが、何がどういふものをいふのか全く分かりませんでした。でも、この集いで講師の方にわかり易く説明をしていただき、「LGBTQ」について理解することができました。例えば、周りには言えなくて周りの人たちが分からないというだけで左利きの人の数よりも「LGBTQ」の人たちのほうが数が多いということや有名な人にも「LGBTQ」の人たちがいるということなどが分かりました。また、日本だけではなく海外の芸能人の方でも「LGBTQ」をカミングアウトしている方もいて、その人たちの中には、〃より多くの人たちが自分らしく、自由に暮らせる社会の第一歩として〃少しでも、「LGBTQ」の仲間たちがこの記事を見て『ひとりじゃない』と思つてくれますように〃という願いでカミングアウトされた方たちがたくさんいます。有名な歌手の方は自身の歌う曲に〃ありのままの自分を認めて、美しさに気づいてほしい〃という思いを込めた方も

いらつじやいます。

だからこそ、私はこれからの未来でより一層人々が理解していくべきことだと感じました。そして「L、レスビアン。G、ゲイ。B、バイセクシユアル。T、トランスジェンダー。Q、クエスチョニング（LGBTQ）」を世界中の一人ひとりが真剣に捉え、これらが原因で人権が損なわれたり、いじめや差別などが起こらないようにしたいです。みんなが人間らしく幸せに生きていくために、女の子だから男の子だからなんて自分の普通と他の人の普通は違うんだから、誰かの普通を押し付けるのではなく自分らしさやその人らしさを活かすことが必要だと思いましたし、そういう人がいたときにバカにしたりからかって笑ったりするのはなく、その人たちのために今、その時、自分たちが何をすることができるのかを考えたいです。今までどおり変わらない対応をしていくのが大切なことだと思いました。また、学校の制服をスカートとスラックスが選べたり、エントリーシートの性別欄をなくしたり、学校や会社等での名前の呼び方を統一するなどと言った対策がたくさんされています。そのため、これからの日本や世界のために私は今のうちから様々な世代の方や各国の方たちが話し合い、協力し、理解して、この世界から理由はともあれいじめや差別をなくしていくことが重要で大切なことだと思いました。そして、まだ聞きなれない「LGBTQ」という単語ですが、これからはそう珍しくないものになっていくと思います。だからこれからの世の中の対応が重要になっていくことだと私は考えます。

参考 JobRainbow

## いじめのタネはうみません！

大町中学校 一年 中島 なかしま 愛梨 あいら

私は、この人権作文を書く事になった時、まずテーマにしようと思ったのはいじめでした。

なぜ、いじめは起きるのか。私は、いじめにはたくさんの種類があると思っています。調べると悪口やかからかい、無視をするなどが一番多いことが分かりました。私の経験では悪口より陰口の方が多く感じました。なので、今のいじめは、暴力で相手を傷つけることよりも、裏で陰口を言い、無視をしたり、今はネットでも相手を傷つける言葉が飛び交い、空気のように見えないいじめになっているのでしょうか。そして、その見えないいじめが、相手に届く事で心が傷つき、その人が不登校になったり、最悪の行動をとらせてしまったりすることもあります。いじめのことをだれかに相談することは、とても難しいことです。なぜなら、だれにも心配をかけたくない、言ったらまたやられる、無視をされる、など、いろいろな気持ちがあるからです。ここまでのことで考えてみて、いじめが起きる理由は見えないからこそ、だれにも注意されず、いじめている方からしたらただのからかいだったり、遊びだと認識しているせいで、いじめと判断しづらくなり、見えないいじめができてしまったのだと私は考えます。

いじめを無くしていくには、私達に何ができるのでしょうか。私は、授業で人権を学び、様々な人への理解を示し、偏見を無くしていき、悪口や陰口になってしまふタネを無くす事が大切だと思います。また、いじめのタネにもなり得る、スクールカーストも、無くすることはできなくても、みんなが平等ということを分かった上で、一軍が一番えらい、従わなければいけない、ではなく、一軍も二軍も三軍も、悪いことは悪いと注意しあえるようになることが、自分達が中学生の今、考え、大切にしなければならぬことだと思いました。いじめは起きてからじゃおそいという事を理解しなければいけません。

私は、小学生の時はまだ人権についてあまり知りませんでした。私は察しが悪いので、何かあっても気づくのは後の方でした。小学生の私は、あまり人の気持ちを理解してあげることができませんでした。気づかない内に人を傷つけていたかもしれせん。でも、何より大切にしたいと思っっていることがあります。察しの悪い私だから、見て見ぬフリをすることは絶対にやめたいです。見て見ぬフリをしようと、察しの悪い、を理由に

して弱い自分から逃げることになってしまっただけです。それに、見て見ぬフリをしてしまっただけでまたいじめが起きる原因になってしまいます。いじめの側が一番悪いのですが、それを見て見ぬフリをする傍観者もいけません。自分で何もできないければ、だれかに相談するなどが一番だと思います。今回人権作文を書いて、いじめについて深く考えることができました。これからは、相手の気持ちを考えた発言をし、いじめを増やさないためにいじめのタネをなくしていきたいです。そして、見て見ぬフリを絶対に行わないために、よく周りを見て、自分を成長させ、みんな平等でいられるよう、しっかりと行動したいです。

## 私の願ひについて

大町中学校 一年 渡邊 陽菜

あれは、白熱した運動会の時だった。後ろの男の子に椅子を引かれて恥ずかしい思いをしたのは。私は、一年生の初めての運動会するとき、「ウーイー」と私が座ろうとした椅子を引かれて、お尻から転げてしまった。その時みんなにバカにされ笑われた。とても恥ずかしかった。それから毎年ある運動会が嫌いになった。

私は、その男の子に対してとにかく『許せない』という感情だけでした。その後、私は引越して大町市にきました。そこで、「みんな優しいな」「みんな私の話を聞いてくれる」と感じ始めた頃には、緊張感も抜けていきました。でも、やはり、三年生の運動会はほんとに「怖い」「不安」「何されるんだろう」とずっと考えていました。ですが、何もなく、いや、楽しく終わりました。だから、運動会は楽しいです。でも、二年生の頃の嫌な思い出は今も残っています。「あの時のことを呪ってやりたい」と思っています。相手にもあります。相手の不幸を願っている私も、いじめをする側の人なんだと思うようになり、相手の権利を侵害することになる。そう考えれば、いじめをする方も悪いと思う。でも、いじめられた側が「呪ってやる

など」と考えるのもいけないと思う。権利を傷つけているから、こんなことをなくしたいと考えています。

私は、こんなこともあってほしくない。いじめをなくしたい。と思っています。みんなが持っている権利を大切にし、平等にし、みんなが相手を思い合うことを意識して二度と繰り返さないように私は、早いうちに人権についてみんなが学び、学んでいる方は学び直す機会を作ったほうがいいと思います。すべてのいじめをなくすには、多くの時間が必要だけど、見かけた場合勇気を出して、止めに行きたいです。それは、いじめにかかわらず、差別・虐待もです。この思いが、多くの人に届いてほしいと思っています。

## 理解し合って、平和な世界を

大町中学校 三年 川上 那月

私は人権が一番大切なことは理解だと思っています。見ただけで、好き、嫌いをするのはいじめと同じだと思います。「黒人だから」「や」「車いすに乗っているから」など、見ただけで差別するのではなく、その人に話しかけたり、観察することで、外見だけではなく他のことを理解できます。話しかけてみて、この人とは気が合うや、この人は気が合わないから苦手と思うことも、理解の一つだと思います。

もう一つ大切だと思うことがあります。それはどこからがいじめで、どこからがいじめではないのかです。いじめられている側の人が嫌だと感じればいじめです。「この人は、人と話るのが苦手」や「この人は、一人で行動することが苦手」など、小さなことの理解があれば、いじめはなくなると思います。

でも、理解しにくいことも、理解できないこともあるから、いじめが起るのだと思います。SNSでは、自分の顔が分からないようになってるので、好きなことを書き込みます。SNSでは、アイコンによって印象

を勝手につけられたりして、いじめがおきやすい場所だと思えます。

SNSで活動している人は、ほめられるコメントと同じくらい悪口を書かれるそうです。これも理解されにくいからだと思います。見た目と話した感じが自分の思っていたものと違うなど、自分の考えとは違うものと、理解も難しいと思います。

私は、いじめや差別がない、平和な世界を理解し合ってつくっていききたいと思えます。

## 涙の想い

大町中学校 三年 西谷 優

私は、戦争のことについて改めて考えようと思った。自分自身、戦争を経験したことは全くなく、どれだけ苦しくて悲惨なものか分からずにいる。八月になると被爆した広島や長崎のテレビをよく目にする。私ができるのは、心の中で黙祷し、祈りを捧げることしかできない。小学生の時、原爆（戦争）の存在を知った私は、本を読んだり写真を見て、当時の残酷だった現実を学んだ。

原爆というのを知った時、家族から「ひいおばあちゃんが当時広島にいて、その様子を話してくれたんだよ」と教えてくれた。そのひいおばあちゃん、私が生まれる前に亡くなってしまったため、そういうことがあったのも知らなかった。落とされた場所から離れたところにいたから、命は助かったと言っていた様だ。

その話を聞いてから、今でも記念館の様子を動画で見たり、当時の辛さを語り継いで戦争への思いを伝えたりしている人の姿を見続けた。あれから七十七年目を迎えた今も尚、世界で戦争が起きている。国民の命を犠牲にしてまで何を手に入れたいのか、何が必要なのかと考える。でも一向に正しい答えは見つからない。罪のない人達、子ども、戦争を望んでない人達の涙と痛みがどれだけ切ないことか、その様な人々を助けていくにはど

うしたら良いのかを考えなければいけない。いつも通りの当たり前だった日常がいつ崩れるか分からない恐ろしさ。家族や友人などの大切な人もとから離れて兵士として動き、自分の命を失う覚悟をしなければならぬ苦しさもある。国のために、大事な人のために、我が子の明るい未来のために、立ち向かった人もいる。それは、兵士としてじゃなくても生きようとして一生懸命になる人も一緒なのだ。

「平和」には様々な形がある。だから私は、「平和とは何だっつ」と考えるよりも「平和を実現するにはどうすれば良いのか」を考えることが大事だと感じた。安心した環境の中で自分らしく過ごせる場があるということが何よりも大切に魅力的だということ、それは、自分はもちろん、世界中の誰しもが平等にあるべき場なのだ。

今、私の過ごしている環境は戦争という影は全くない。でももし、この国で戦争が起きたとしたら、どうなってしまうのだろうと思うと怖い。家族を失ってしまうのではないかという不安とまだ生きたいという希望を強く抱くだろう。大事な人と過ごす時間を増やすために、笑顔が増えるひとときが多くなる様に、一日一日を大切に生きたい。

悲しさ、悔しさ、寂しさなどから涙は多く出る。でもそれを反対に、嬉しさ、楽しさ、「ありがとう」と思える感謝できる場で涙を流せるのは少ないかもしれない。でもそれを感じられる瞬間がきつとある。少ない瞬間を多くの人に感じてほしい。命が繋がれて、自分の存在がどれだけ愛おしいのかを知ってほしい。今を生きる人達へのメッセージだ。

## 人間社会の自分の存在

大町中学校 三年 平田 優月

日々、ネットでは簡単に火種が落とされ、またたくまに燃え広がる。そこであなたは、犯罪者の人権について考えたことがあるだろうか。

まず前提として「人権」とは十八世紀後半のアメリカの独立宣言やフラ

ンスの人権宣言に盛り込まれた考え方だ。私にとって人権とはこの世に生まれてくる時得られる権利——すなわち、あって当然のものだ。そこで私が問いたいのは、人が人として生きる権利を侵害する者にも人権があつて良いものか、という事だ。人の命をつばつてしまえば勿論捕まる。しかし犯罪者から人権をつばつてはできない。なぜなら、彼らも人権を持っているからだ。人権は「平等権」「自由権」「社会権」「参政権」「請求権」の基本的人権の五つで構成されている。ニュースを見れば凄惨な事件と共に犯罪者の名前がでる。そうすると、X(旧ツイッター)でリアルタイムの伝言ゲームが始まる。デマは全てが嘘ではないからこそ信じてしまう。情報というのは必ず誰かにとつての利益となり、その分だけ誰かに不幸を運ぶ。人権は「人が人として生きる」ための権利であると同時に「人が人として死ぬ」権利でもあると思うのだ。人権は見えないところでのその存在を人だと認めるものだ。動物は人ではないから人権は適用されず動物愛護法によつてある程度は守られる。当然だ。人間の世界に当てはめられた法律で人間が守られないことはないのだ。「命は皆等しい」というのは、あくまでも人間象徴社会においてである。人間を守るためには他を切り捨てなくてはならない。それを理解した上で私が考える人権とはやはり、「人が人として死ぬ」権利なのだ。人が人として死ぬには必ず守られる事がある。それは人という存在の形だ。反対に人として死ねない場合に守られない事は何か。故人の尊重である。例えば自分をうつらむ誰かに殺された時。法の下に平等な命に対し自ら順位を付け、死ぬべき、殺されるべき、といった具合に人権を侵害される。人権が正しく守られていれば、本来生まれた時、死ぬ時に大差がないはずなのだ。にも関わらずそうはならない。つまり、保障できる命には限りがあつて、守られるべき命の優先順位は決まつていくということだろう。

私は人権を「見えないところでその存在を人だと認めるもの」と称した。人権によつて保障された命に優劣はないが尊卑はあるのだと証明していることになる。私はなにも、人権を意味のないものと言いたい訳ではない。私はこの場合に卑しい者を人権侵害をした者とする。

私は犯罪者を賤む。あなたはどうかだろう。心のどこかで犯罪者を人間として見ていないのではないか。そう思い、私はこの作文を書き主張を置く。ネットでは感情のみで犯罪者には「人権がない」のだと平気で主張する。しかしながら人として生まれもつた権利を剥奪しようとするところこそが人権侵害と言えるのではないだろうか。罪を犯し捕まつた者にも家族が居るが彼らの人権までも迫害して良いわけがない。神戸連続児童殺傷事件を知っているだろうか。通称酒鬼薔薇事件。私と同じ中学三年生だった男子生徒が児童五人を襲い、内二人を殺害した。遺族は勿論、凄惨な事件を知つた人々もが彼を批判し、遺族の無念を訴えた。それはゆるぎない人権保障への意味を成さない。この事件で加害者である少年の顔写真が公開された。本来少年法で守られている彼の容貌が明らかとなる写真が掲載してはならない。メディアによる人権侵害を行った新聞社の対応に世論は賛否に割れた。少年は確かにやつてはならない事をしたが、それが我々による勝手な考えによつて今後歩む道を阻害する理由にはならない。法律を守らない者を法律で守る必要がないと考えるのは感情のみの措置であつて正邪解らぬ子供と同義だ。法を碌に解せず社会に流され自覚なきまま私も罪にふれるのだ。

法は他に迷惑をかけずに自由行動するようにできている。それに私は言葉を返したい。生きる行為は周囲に多大な迷惑をかけるのだと。だからこそ相手を許さなくてはならないのだと。そのためには法律をよく知つておかななくてはならない。ルールやマナーとは違つた所に存在する法律は行動をしぱり、正当化する。罪は案外道徳的に存在するのだ。犯罪者には当然人権があり、それを迫害してはならない、というのが私の出す結論だ。あなたは私の意見に何を返すだろう。

法律は罪を犯した者を更生する措置などではなく、国家の秩序を守る、道徳やモラルとはかけはなれた位置付けが成されている。

ただ忘れてはならないのは法律は我々にとつて絶対を定めるものではないということだ。

## ひとつの変わり方

八坂小中学校 七年 渡邊 剣太郎  
わたなべ けんたろう

自分を好きになるために、僕はみんなに差別をしないという事が大切だ  
と思います。

差別と言っても種類はいっぱいあります。人種・民族・宗教・文化に関  
する差別、言語・地域に関する差別、性に関する差別、能力に関する差別、  
病人に対する差別、身分や階級、職業に関する差別、逆差別、制度的差別  
……などがあります。

僕は差別の中でも特に学校で起こる差別を調べようと思いました。学校  
の中の差別では仲間はずれが一番多いと思います。それがどんどん進んで  
いってしまうとその仲間はすれにしていた子を不登校にしていまつかもし  
れません。仲間はすれにされている人を見つけたらまず最初に、「自分で  
仲間に入れてと言ったらいよいよ」と言ってしまうがちですが、もともと仲  
間はすれにされているから、入るのは難しいと思います。だからまず「ど  
うしたの」など最初に心配する言葉をかけてあげると相手も話しやすいと  
思います。話してくれたらそれに対して優しく答えてあげるといいと思い  
ます。例えば「それなら一緒にあの子達のところに行つてあげるといい行こ  
うよ」など、優しく声をかけてあげるといいと思います。自分が仲間外れ  
にされていて本当に困つてしまつたら、三つの方法があると思います。ま  
ず相手に言葉や態度で意思を示すことです。気持ちをはっきりと相手に伝  
えることです。次に先生など信頼できる人に相談をすることです。最後は、  
具体的な記録を取ることがいいと自分は思います。例えば〇月〇日〇曜日  
どう仲間はすれにされたかを書くと信頼できる人に相談するときにも相手も  
わかりやすいので、アドバイスしやすいと思います。

ほかに学校だけではない、「女性は料理や家事をして男性は仕事をす  
る」といふことや、「男子はかっこいいのが好き、女子は可愛いのが好き」  
なふつとつきえ方が当たり前になつてしまつてくることはいらないでしょうか。

その常識になつてしまつていことがおかしいと思います。男性女性どち  
らでも料理や家事、仕事をしていいという常識を作らないと、一生差別は  
なくならないのではないかと思います。僕が思う解決方法は、ポスターを  
作つたり呼びかけなどをしたりすればとても効果目が出るのではないかと  
思います。この世界にはこんなにも差別があります。差別のことを考えて  
全員が協力してなくしていけばいいなと思います。皆さんも差別について  
考えてみませんか。

## 人に気持ちを伝えるとついでに

美麻小中学校 七年 清水 凜  
しみず りん

「そんなに強い言い方、しなくてもいいのに」そう思ったことがあります  
せんか。私はたくさんあります。でも、どうしてそう感じてしまつたのでし  
ょう。人はそれぞれ感じ方や考え方が違うからだと思います。

感じ方、考え方が人それぞれ違うことには良いところと悪いところがあ  
ると思います。まず、感じ方、考え方がそれぞれ違うことの良さとしては  
いろいろな感じ方、考え方があつておもしろいと思います。一方、悪い点  
としては、感じ方、考え方が違うことによつて、だれかが悲しい思いをし  
てしまうという点です。例えば、話をしているときに、考え方や物事の捉  
え方が違つたらトラブルになつてしまつこともあります。

私は戦争も同じだと思います。今でも戦争をしている国がありますが、  
戦争は国と国の考え方が違い、それを互いに認め合えないから起きてしま  
うのだと思います。

では、どうすれば争いにならないのでしょうか。お互いのことを理解し合  
えば、だれも悲しまないし、傷つかないと思います。でも、お互いのこと  
を理解し合つたということは、大切ですが、難しいことです。その国やその  
人を理解するということは、会話や対話を重ねることによつて、相手のこ  
とを今以上にもっと知ることだと思います。確かにこれは難しいことです

が、相手の今まで知らなかった特徴や性格などを知らないことが嫌なの、おもしろいと思います。みんなが相手のことをもっと理解しようと思って、会話や対話をすれば、少しでも平和になるのではないのでしょうか。今でも戦争をしている国がありますが、お互いのことを理解し考えるようにすれば、戦争は起きないと思います。

物事の捉え方は人それぞれですが、私は大きく分ければ二つになると思っています。例えば曲を聞いたときに、その曲を暗いと感じるか明るいと感じるかです。

言葉の捉え方についても、人と会話しているときに、その人が発した言葉をどう受け止めるかということだと思います。例えば、「何、言っているの」と相手に言われたとします。その言葉をあまり気にせずに軽く受け止めるか、その言葉を重く受け止めるか、二つの受け止め方があると思います。ちょっととした言葉でも重く受け止めてしまう人もいると思います。その人たちは、自分が言われていなくても強い言い方をされている人を見ると悲しくなってしまうのではないのでしょうか。実際に私もそうです。私と言われていなくても、他の人が強い言い方をされているのを見ると、悲しくなります。だから、自分が強い言い方をされてしまうと、ものすごく悲しくなります。私はこのような自分の性格が嫌でした。

でも、最近は考え方を考えてみようと思っています。その性格は自分にはかないものだと思うようになりました。そうしたら、前向きに考えられるようになりました。あと、前よりも人のことを考えられるようになりました。「この人はこんな性格だから、こんなふうに伝えてみよう」と、言葉の使い方、接し方を考えることも心がけられるようになりました。

伝え方や、人との接し方を考えてみて自分が思ったことは、人それぞれの個性を認めるということは難しいけれど、とても大切だということです。他の人のことを理解する人が増えていけば、世界はもっと平和になると思っています。

## あたり前の幸せ

美麻小中学校 八年 小宮山 琥珀

「パパはチャーハンが食べられないのよ」ある日チャーハンを食べていたら、突然母に言われた。それを聞いたばかりは、とても驚いた。

ラオスという国を知っている人は少ないと思う。ラオスとは、東南アジアにあり、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、中国に囲まれている内陸国である。父はこの国で生まれた。ラオスの主食は主にもち米だが、一般に有名なのが昆虫食である。でも昆虫以外にも、トカゲなどの爬虫類や、哺乳類も食べてしまう。昔から日本では食べない、いろいろなものを食べるという文化があった。

しかし、父は幼いころ、とても満足できないような食生活を送っていた。それには理由がある。インドシナ戦争である。一九四五年から一九五四年にかけて当時フランスの植民地であったベトナム、ラオス、カンボジアの脱植民地化をめぐるベトナムとフランスの間で勃発した戦争である。隣国であったラオスは巻き込まれてしまい、多くの爆弾が落とされた。戦争が終わってラオスは独立国となった。終戦して20年後に父が生まれた。しかし、20年たつてもなおラオスは復興できていなかった。父が住んでいた村は、家がなく、村人は防空壕の中でくらしていた。村では配給が行われており、米を豚の油で揚げた飯を食べていた。父によるととてもおいしいと思えないほどまずく、なんとなくチャーハンに似ているらしい。もちろん、栄養が足りないため村の子どもたちは体が弱かった。一方父はある程度栄養をつけていた。なぜなら、父の母、つまり僕の祖母が生きている虫をそこら辺から集めて、調理して食べさせていたからだ。

あるとき、村で事件が起きた。村の子どもがどんどん亡くなってしまったのだ。枯葉剤のせいだった。戦争の時にまかれていた枯葉剤の気体が、防空壕の中でじゅうまんしていて、村の子どもたちの肺がどんどん弱っていった。村の子どもは50人いたが、生き残ったのは幼い父ともう一人の子

どもだけだった。過去の記憶が残っていた父はチャーハンと出会ったとき、どうしても食べられなかったらしい。

今の時代でも僕の父のように戦争や紛争のせいで、幼いころにあたり前の生活や大切な人たちを失ってしまう人は少なくないと僕は思う。あたり前の幸せや大切な人がいるという幸せがうばわれないように、世の中は、考え方を改める必要があると僕は思う。

## 本当の平等とは

八坂小中学校 九年 西海にしうみ 葵あおい

僕はレディーファーストという言葉が嫌いです。なぜなら、この言葉は男女平等という言葉と矛盾しているからです。

近年、女性の声で社会現象が起きることが多いと思います。例えば家事の合理化、女性の社会進出、など色々な事が挙げられます。

このように、女性の声、少数派の意見が受け入れられやすくなったことにより、逆に男女不平等になってきている気がします。特にレディーファーストという言葉は間違った意味のとらえ方をしている人が多いと思います。レディーファーストとは、乗車や、食事の時などに女性を優先するという欧米のエチケットのことです。それなのに、女性の方から「レディーファーストだから」と言い無理やり前に出ていく姿をよく見かけます。これはレディーファーストでもなんでもなく、ただの立場を利用した行動、つまり今の日本ではレディーファーストという言葉はただの都合のいい言葉でしかないわけなのです。

先日見た新聞に、このような記事が載っていました。「アフガニスタンダンスも女性スポーツも禁止」、僕はこの記事を読んで、世界の中で本当にレディーファーストを求めている人、男女平等を求めている人は誰なんだろう、本当の平等とはなんなのだろうと思いました。平等とは、かたよりの差別がなく、全てのものが一様で等しいことです。今の日本は比較的

男女平等な国です。でも、もっとよりよくするには、世界のことをもっとよく知り、人と自分の考えを比べてみるのが大事だと思います。そのために僕は世界にもっと視野を広げ、自由のない国について考えたり、誰かと話し合っただけでいいから、本当の平等とは何なのかを考えていきたいです。

## 高校生の部

岳陽高校では人権教育の授業で鑑賞した「桜色の風が咲く」という映画の感想文を書きました。

### 桜色の風が咲くを観て

大町岳陽高校 一年 折井 翔信おりい しょうしん

とても素晴らしい映画でした。本人や家族の壮絶な体験の数々に、本当に実話なのかと驚きました。父親が目の異常に気が付いて、病院で診断を受けましたが、それは誤診であり、別の女性医師に診てもらったところ、「牛眼」というとても珍しい目の病気でした。まだ小さい主人公の智君の年齢を考えると、母親にとってはこの診断は信じがたいものであったと推察できます。手術するために入院した際、病室のベッドの向かいで入院している男の子が「入院生活が長くなると、いっぱいお守りもらうからあげる」とお守りをくれたシーンに共感しました。私にも長期入院の経験があり、このシーンは印象に残っています。しかし、その男の子が脳腫瘍で亡くなってしまったことを知らされたシーンはあまりにも急なことでも驚きました。

智君が少し大きくなり、目の視力が弱くなり、長い入院と手術を繰り返す何度も目に針を刺すというシーンでは想像すると恐ろしく感じました。それを智君は幼い頃に経験し、耐え抜いてきたという事実にとっても複雑な気持ちになりました。

治療の効果もむなしく、両目の視力を失うことを医師に告げられました。父親が「光を失う前に智にできるだけ多くの景色を見せてあげよう」と家族全員を花畑や海に連れていきました。このシーンでは智君だけがサングラスをかけ目立つことの無いよう父親もサングラスをかけている描写があり、家族の絆を感じ、感動しました。

時がたち智さんは上京し、高校では山本さんという友達もでき、楽しく生活していましたが、次第に聴力までもが弱くなってきてしまいました。このシーンでは光もなく音もない世界で過ごすことになるかもしれないという底知れない恐怖を私は感じました。帰省の際家族に耳が聞こえづらいうことを打ち明けました。高校にも慣れ、ようやく色々なことにチャレンジできる中、目が見えなくなること以上に不幸なことなど家族は想像もできなかったはず。食事療法や運動療法を始めますが、効果はなく智さんの中に段々とストレスが溜まっていきます。今までのシーンであまり感情を出すことの無かった智さんが初めて声を荒げたことにとっても感慨深かったです。

高校を卒業し、大学の入学式の桜のシーンでは、目が見えず、耳も聞こえないはずなのに智さんが「きれいだね」とつぶやきました。心で景色を見たこのシーンに感動しました。

このように壮絶ですが愛に満ちた素敵なお話が実話だということに驚いています。授業で観る映画だったのであまり期待していませんでしたがこのような映画に出会えることができ心からよかったですと思いました。

### 生きるとは

大町岳陽高校 一年 矢口 琉稀やぐち りゅうき

私は「桜色の風が咲く」を観て感じたことが4つあります。

1つ目は、映画の中で出てきた「命は自分自身だけでは完結できない」という言葉について意味深さを感じました。映画の中で、「生命は他者から満たしてもらうことで成立し、自身の使命は目が見えないという苦しみがあるからこそ成り立っている」と言っていました。主人公の智さんは小さい頃から苦しみが多かった中で何度も挫折しそうになりますが、母親を始め、家族や友達などのいろいろな人に助けられました。だからこそ一歩ずつ前へ進めたのではないかと思いました。

2つ目は「たとえ目が見えなくても、耳が聞こえなくても自分自身は考えることができる」という言葉についてです。幼少期から視力が失われ、成長してからも聴力が失われた中で、主人公は絶望を感じたであろうと思っただ。そして、いろいろな方法を用いて聴力回復を図ったが、治ることはなかった。そのような中で、母親が気づかせてくれた「見えなくても、耳が聞こえなくても考えることができる。」というセリフは共感する感情を覚えました。考えることができれば生きていける。また考えることをやめてしまったらそこで尊厳を失ってしまうのではないかとこのシーンやセリフから考えさせられました。

3つ目には感じたことは「心はつながっている」ということです。智さんの苦しみは本人しかわからないのかもしれませんが家族も智さんの苦しみを感じ取っていたと思います。最後まで支えた母親は、一番よく苦しみを理解していたのではないかと思いました。映画の終盤ビールを飲むシーンがありました。家族はやはりかけがえのない存在なんだなと思いました。

4つ目は「あきらめない。」ということ。ただ一言であきらめないとは発することは簡単ですが、一つの壁にぶつかってしまおうとどうしてもあきらめなくなってしまうことが多いと思います。そんな人が多い中いろいろな人のサポートもあり、最後は自分の目標である大学に進学できる姿を見てすごいなと思いました。

最後にこの映画を観て思ったことは、今何一つ不自由なく生きていられる私は幸せ者だということです。また、智さんのように不自由を抱えながらもあきらめずに頑張っている人が現在もいるのだと考えることができ、大きく心に残っています。これから先、障がいをもつ人に出会った際は、何もしないのではなく、自分でも何かできることはないのか考え、サポートできるそんな人でありたいと思いました。また、目標に向かう智さんのように、私も目標に向かって頑張っていきたいと思いました。

## 桜色の風が咲くを観て

大町岳陽高校 一年 山崎 やまざき みなみ

私が「桜色の風が咲く」という映画を通して「それぞれの人々が、自分らしく生きられる世界の大切さ」を考えました。もしも私が主人公と同じような状況になっていたらどうなるか、どんな世の中なら自分らしさを持つて生活できるのだろうかといったことを考えながら映画を鑑賞したことで普段とは違ったものの見方をすることができたのでいくつか紹介します。

1つ目は多くの人の心の中にある「偏見」について考えたものです。なんとなく心の中で浮かんだ他者のイメージは必ずしも良いものとは限らず、時には人を傷付けてしまうようなイメージを持つてしまうこともあると思います。偏見が原因となる人権侵害が無くなるように、一人一人が他者を尊重する「ダイバーシティ」の考えが今よりさらに広がって欲しいという思いがこの映画を観ているうちに浮かんできました。

2つ目は「人権侵害」について考えたものです。映画の中で、幼少期の主人公が母と診察を受けているシーンや、主人公が母とランニングしているシーンでの他者の視線や行動について「これらのことは人権侵害に当たらないのだろうか」と思いました。障がいを持つこと、生まれ、性別、肌の色などによって差別に苦しんでいる人は今でも数多く存在すると学んできました。本当にこのような社会でよいのだろうか、今自分にできることはないだろうかと考えながらこの映画を観ることができました。差別による人権侵害を防ぐ対策として、私は差別を完全になくすことが重要ではないかと思いました。人それぞれ生き方があり、自分と違う人がいて当たり前といった考えを人々が今よりもっと強く思えるようになれば、差別をすることもなくなるのではないのでしょうか。

3つ目は今の自分を振り返って考えたものです。今までの自身を考えたとき変わっていく必要がある面がいくつかあることがわかりました。社会全体として差別をなくし、人権侵害を受ける人がいない世界にするた

めにも「勇気と優しさ」を持った人間になるということです。差別の考えを感じたときは注意できる、苦しんでいる人に声をかけて寄り添える「勇気と優しさ」のあるそんな人間になろうと強く思いました。

## 人権とは何なのか

大町岳陽高校 二年 中丸 青

私は「桜色の風が咲く」を鑑賞して、人の生きる意味とは何なのか、そもそも人権とは何なのか、この作品の主人公や私たちにとってそれらにどれほどの価値があるのか考えさせられました。同時に今までの私の持っていた固定されていた考え方に新たな考えを付け加えてくれるよい機会になりました。

今まで私が考えていた「人権」の意味がこの作品によって全く別の考え方に変わったわけではありません。しかし、主人公の智さんの人生を映画という形で体験し、今まで持っていた考え方に補足されるような感覚になり、人権問題に対してとても親身になつて考えることができました。

作品中、8歳頃の智さんが右目の視力を失い、義眼で生活していた場面で、智さんの右目について「目が見える自分たちとは全く異なつた人間だ」と言わんばかりに冷やかしのような接し方をした子供達を見て、多様性の受け入れ方について考えました。確かに智さんと同じ境遇ではない子供達からすると、智さんの気持ちの全てを汲み取り、共感することはできず、また寄り添うことも難しいことだと思えます。しかし、同じ一人の人間として支え合い、理解をすることはとても大切なことであると考えました。多様性が広く受け入れられた現代では、盲ろう者への理解が広がり、受け入れられてきました。しかし、智さんの「自分の気持ちは誰にも分らない」という発言からも感じ取れますが、共感することは同じ境遇にある人でない限り難しいことです。ただ、気持ちに共感することは難しいことかもしれませんが、理解を深め、同じ一人の人間として他者を同じように

受け入れ、支え合っていくことが「多様性」を尊重することにおいて大切なことだと考えました。

作品中の「生命はその中に欠如を抱きそれを他者から満たしてもらおうのだ」という言葉から、人権は他者からの承認であると考えました。人は他者と関わることで生きる意味を認識するので、他者との関わりなしでは生きることができない。このことから人権には、自分たちが健康で、充実した生活を送ることを補償する意味を持つと共に、他者に生きる意味や生きがいを与える役割を担うのではないかと考えました。

多様性や人権の尊重が唱えられている今、智さんの家族や友人のように互いに認め合い、支え合っていけるような社会なっていけば良いなと作品を通して感じることができました。

## 桜色の風が咲く

大町岳陽高校 二年 丸山 美心

私は「桜色の風が咲く」という映画を観て主人公の生きることをあきらめない強さに惹かれました。

主人公が幼い頃から五感の一つである視力を奪われ他の人より苦勞して生きていく中で、心の中にはまだ世の中を見ることができると目があると自分を信じあきらめず自分の境遇を理解し受け入れる強さに感動しました。また、主人公を一番近くで支え、「代われるなら代わってやりたい」と涙を流して家族とともに何度も苦難を乗り越えた母の偉大な姿にとっても感動しました。

そんな中、視覚障がい者にとってはとても大切な聴力までもが奪われようとしていた。主人公が家族に聴力が弱まっていると打ち明けることをためらった理由は、家族特に母親にこれ以上の心配や苦勞を掛けたくないという気持ちがあったためだと思った。同時に本人にとっても聴力を失う現実を突きつけられ今まで乗り越えてきた苦惱が水の泡になっていく気持ち、

世界がどんどん自分を突き離していく恐怖を認めたくないという弱弱しくなっていく気持ちが表されていた。

しかし、主人公はこのような状況でも諦めることはしなかった。なぜならば学校生活を一緒に過ごしている一人の女の子がいたからだ。彼女の声やピアノに主人公は想いを寄せていた。二度と聞けなくなることは彼にとって生きがいが無くなるといっても過言ではなかった。主人公は今まで以上に努力し、自分の人生を歩もうとしていたが、医者も神様も助けてはくれませんでした。母親も昔は頼っていた神様であったが頼ることをやめた描写があった。そして、主人公は言う者となり本人、家族はすべてを受け入れることになった。

私は、言う者という言葉を初めて聞いた。目が見えない、耳も聞こえないという感覚は当事者でしか全てを理解することはできないものだろう。映画の中でも主人公は『宇宙に放り投げられた』と表現していた。深海や宇宙の中で一人取り残され、一つの希望も見えない世界はどんなものなのだろうか。そんな逆境の中でも母の助けが主人公の人生を救った。それが『指点字』というものだ。これは言う者の一つの言語として今も重宝されている。これがきっかけとなり紙一枚でしか成り立たないと思っていた主人公に光が見えた。挫折しかけた主人公はもう一度奮闘し、再び学校へ行くことができた。そこで暖かく迎え入れてくれた友達に支えられ、そして何より想いを寄せていた女の子に再開するシーンでは、主人公は彼女のピアノを目ではなく、耳ではなく目で、触覚で見ている。

ここまで主人公が自分の人生を自分らしく生きてこれたのは、母の愛、家族の愛、仲間を思う友達、そして決して諦めず、投げ出すことをしなかった主人公の意志の強さ、どれが欠けても不可能であったであろう。実話だからこそ重みを感じることができた素晴らしい映画だった。

## 編集後記

次代を担う児童生徒に、人権尊重の重要性について理解を深め、豊かな人権感覚を身につけてもらうことを目的に、今年度も人権課題についての作文・ポスターをお願いしました。こうした作品を集録した作品集も、第四十七号となりました。

応募作品は、いずれもみずみずしい感性に富み、純真な感覚で人権課題を捉えたものばかりで、真摯な姿勢に心を打たれるものがあります。これは、身近な生活の問題と関連づけて学習してきた、学校人権教育の成果の現われであると思います。

全教育活動を通して、市内の保育園や認定こども園、小学校、高等学校で人権教育の取組みを行っています。

作品を通じて伝わるメッセージは、私たち一人一人が尊重され、平等に扱われるべきであるという重要なテーマを思い起こさせてくれます。地味であろうとも着実な取組と実践を継続する事が、一人一人が平等で尊重される社会の形成に通ずるものと考えます。

貴重なこの作品集を広くご活用いただき、人権尊重の意識が更に大きく広がることを願ってやみません。

発行にあたり、ご参加いただいたすべての児童生徒の皆さん、様々な面からご協力、ご尽力いただきました、各校の先生方に心から御礼申し上げます。

---

---

令和6年度(第47号)

小・中・高校生による

# ヒューマンライツ

～人権教育作品集～

編集・発行／大町市教育委員会  
TEL 0261-22-0420  
発行日 令和7年2月  
印刷・製本／株式会社 奥村印刷所  
TEL 0261-22-0205

---

---